

第45回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. 医療から看取りを取り戻そう 小杉寿文
2. 大切に生きるって何だろう—家族の治療、自分の育児を通して今感じる事 梅野理加

総会特別講演

1. コロナ新時代の死の臨床—いのちと向き合うあなた自身のケア 高宮有介

講演

1. グリーフケアにつながる終末期患者の家族ケア 鈴木志津江
2. 高齢者・認知症患者の意思決定支援と倫理的問題 吉岡佐知子
3. 人生の最終段階を生きる高齢者の人権と尊厳を護る 石垣靖子
4. 新型コロナウイルス感染拡大と悲嘆 高木慶子
5. いのちの授業を通して伝えたいこと 三好 綾
6. 「今」考えていること 山崎章郎

特別講演

1. 死と共存する笑いの世界—落語ではいつも誰かが死んでいる 三遊亭竜楽

Webフォーラム

1. コロナ禍に想う 座長 下稲葉順一・前里喜一

シンポジウム1 死生観をともに育む

座長コメント 五十嵐雄道

1. 死生観を共に育む 田畑正久
2. 可視範囲の自覚 藤田文亮

シンポジウム2 困難を生きるちから

座長コメント 梅野理加

1. 人は自らの生をいかに見出し、他者の生をいかに支えるか—スピリチュアルの観点から 小西達也
2. 『死にたい』と訴える人に寄り添うということ—スピリチュアルケアの現場から 清田直人
3. ALSとの闘い 藤田正裕
4. ALSとの闘い 中野千秋

シンポジウム3 人生の最終段階における意思決定支援—“人生会議”の課題を考える

座長コメント 矢津 剛・満岡 聡・小杉寿文

1. コロナ禍においてこそ「意思決定支援」の在り方を考える—ACP（人生会議）と「無言の圧力」問題 板井孝壱郎
2. “人生会議”の課題と新たなリビング・ウィルへの進化 満岡 聡

シンポジウム4 認知症の緩和ケア

座長コメント 小野光美

1. 認知症を知る、認知症による不安を知る 桑田美代子
2. 身体的苦痛と緩和—合併症を中心に 木下正治

3. 認知症を抱え生きる人の拠り所になる場, 人をつくる 大谷るみ子

シンポジウム5 災害関連プログラム 暮らしとともにある復興にむけて

座長コメント 吉武 淳・村上雅彦

1. 東日本大震災からの復興と長期的影響について考える 村上雅彦
2. 被災地で育つということ—東日本大震災後10年間の臨床と研究からみえる子どもの育ち 八木淳子
3. 熊本地震 その時阿蘇は その後の阿蘇は 甲斐 豊

シンポジウム6 AYA 世代を取りまく問題—結婚・妊娠・子育て・仕事に対する医療者の支援

座長コメント 梅野理加・田中まゆこ・成清優子

1. AYA 世代支援における問題点の根っこからスムーズな支援連携を考える 金城 舞
2. 治療と仕事と家族を支援する社会の仕組みについて考えること 室岡明美
3. 育児中の乳がん罹患の経験から 河野梨香
4. 妻に、してあげたかったこと—AYA 世代がん患者とのコミュニケーション 植田岳雄
5. AYA 世代がん患者とのコミュニケーションに関する課題, そして関わり方への一考察 白石恵子

シンポジウム7 暮らしの中で看取る—医療・看護・介護の連携

座長コメント 山岡憲夫・日浦あつ子

1. 自宅療養から施設入所, そして自宅の中で看取る 小野幸代
2. 暮らしの中の看取りへ—医療と介護の連携・ケアマネジャーの役割 益永佳予子
3. 暮らしの中で看取る—医療・看護・介護の連携 市原美穂
4. 看取りの体験が地域(コミュニティ)を変える ニノ坂保喜

企画委員会主催シンポジウム 真の援助者を目指して

座長コメント 小澤竹俊

1. A さんの願い 畑中陽子
2. 診療の最前線で届ける祈りとスピリチュアルケア 原信太郎

パネルディスカッション1 今, あらためて尊厳死を考える—コロナ禍で問われる支援のあり方とは

座長コメント 矢津 剛・江口恵子

1. 尊厳死とACP(アドバンス・ケア・プランニング)
—最期までその人らしくを支えるためにできること 大島 彰
2. 尊厳死を考える上で重要なアドバンス・ケア・プランニング(ACP)—コロナ禍において 西川満則
3. コロナ禍の救急医療と意思決定支援—3次救命救急センターの視点から 中村篤雄
4. 壮年期, 命を終えることを考える 小野幸代

パネルディスカッション2 緩和ケアにおけるリハビリテーション

—希望・自立に寄り添うリハビリテーション 座長コメント 中嶋由紀子・安部能成

1. 心に寄り添い続けるリハビリテーション—病棟看護師の立場から 雨森優子
2. ホスピス病棟におけるリハビリテーション
—在宅と病棟を繋ぐ, 思いに寄り添うセラピストの関わり 六反藍子
3. 在宅(緩和ケア)におけるリハビリテーションの意義について—訪問看護師の立場から 浅野文乃
4. 独立型緩和ケア病院における(緩和)外来及び訪問リハビリテーションの関わりについて 福見鉄心

ワークショップ

「渡辺式」シートを使って『モヤモヤ』を『スッキリ』と！ — 「渡辺式」家族アセスメント

渡辺裕子・雨森優子

教育研修委員会企画ワークショップ

スピリチュアルケアとコミュニケーション—「こんな時、あなたならどうする」

長澤昌子

国際交流広場 コロナ禍による死生観と終末期ケアの変容と発展

—ニューヨーク市の在宅ホスピスケア現場報告

岡田 圭・栗原幸江

編集委員会企画パネルディスカッション

論文執筆のすゝめ—臨床における「どうして？」を論文にぶつけてみよう

座長コメント 斎藤真理

1. 臨床研究のすすめ「死の臨床」に投稿しませんか？
2. 私の論文投稿における越えられた壁
3. 患者家族としての疑問から始まった死生学研究

中村陽一
澤井美穂
瀬川博子

音楽対談 白血病が教えてくれた生と死への想い

杉谷耕治
奥園 淳

特別事例検討

1. いっさいの延命治療を拒否し、最終的には自ら食べることを止めようとした
ALS 患者の自宅看取りの経験
2. 本人の死生観に寄り添うケアとは—最期まで輸液を要望した元医師で
認知機能低下のある夫との関わりから
3. 無治療を希望していた認知症のあるがん患者が真の希望を見出し、

辻 宏明, 他

菅野桂子, 他

事例検討

1. 緩和ケアチームのスタッフでも家族の看取り期を認められなかった事例を
家族のインタビューから振り返る
2. 末期がん患者と家族が自宅で最期を迎える段階における意思決定支援
3. ある母子家庭における発達障害と考えられる息子による母親の看取り
4. 「管を入れたら生きる希望がない、生き地獄」と話す膀胱癌患者
—価値観の理解には対話が必要だと気付いた事例
5. 排泄介助 1 日 30 回、希望に沿うケアとはなにか—介護の基本理念から考える
6. 「もっと早く言ってもらいたかった」と言い残し亡くなってしまった終末期患者の意思決定支援
7. コロナ禍での緩和ケア—面会制限による患者家族とのコミュニケーション不足が招く危険性
8. 医療者間で葛藤を抱えながら転院調整を行った 1 事例
9. 暴力行為を伴うせん妄症状のある終末期がん患者に行った尊厳を守るための鎮静が
医療者に不全感を残した事例

正木晶子, 他

高島美智子, 他

菊池麻衣子

小座間恵, 他

岩下賢生, 他

中村良子, 他

河野真揮枝, 他

本松裕子, 他

萩谷翔太

10. 抗がん剤治療に希望を持ち続ける患者・家族への支援

渡部貴江

原著

1. A 県下介護老人保健施設の看取りケアにおける介護職との連携・協働のための看護職の実践と課題
岡田恭子, 他
2. 逝去時のケアとしての霊安室での焼香に関する医師・看護師の意識および実態調査 小林孝一郎, 他
3. 本邦ICU におけるEnd of Life Care の現状—単施設における診療録調査 吉野靖代, 他

調査報告

1. 終末期がん患者と家族の相互作用により創り出される穏やかさの様相 松野 史
2. 進行がん患者に関わる一般病棟看護師の生を支える看護ケア 穴水千尋, 他
3. 国内文献検討による発達段階における死生観の特徴 林 里桂, 他
4. 緩和ケア病棟看護師が終末期がん患者の“気がかりやり残しの仕事”を把握するプロセス
後藤みゆき, 他

活動報告

1. 人生の最終段階における救急搬送の現状と課題 諫山憲司, 他